

菅原春雄

I 序

本学には教養科目として、以前から一般教育科目の中に「日本文化論」通年4単位なる科目が開設され、選択科目としてあったが、短大設置基準改正にともない、カリキュラムの編成変えと、また本学の特色として、学生に幅広い教養が必要ということで、平成5年度より、必修科目として新たに総合講座という名称のもとに、三講座を開設した。平成6年度の講義要項によれば、開設の意義とねらいについて、次のように述べている。

「学生生活は、學術の習得を通じて人間形成を行い、自己発展の基礎を築く極めて重要な時期である。したがって、専門的分野はもとより教養的分野にあっても、人文・社会・自然の三分野における学問の在り方や方法について学び、三分野間相互の関係を理解し、三分野を総合的にとらえ、より一層広い視野に立った理解力・志向力・洞察力を養わなくてはならない。そこでこうした目的を果たすため、三分野を融合し、より広い範囲にわたる問題について、多角的に学ぶ事のできる総合的講座が開設されている。それは以下に見るように三講座あり、それぞれ本年度の主題を定め、年間の授業予定が示され、主題ごとに様々な専門領域からの独自の見方を提示するため、専門を異にする数名の教員により担当され、随時教員と学生が参加して開かれるパネルディスカッションなど、他の授業と異なる方法が採られている。」とあり、その三講座の内容は

総合講座Ⅰ 創造と学習—生きる—

総合講座Ⅱ 環境と文化—外国文化と日本文化—

総合講座Ⅲ ミクロとマクロ—しくみへの理解—

であり、Ⅲの概要は「文学作品、絵画、音楽、それらは文字、あるいは色や音から成り立っているが、それらが組み合わせられて心打つ芸術となっている。私たちの体は、分析していけば細胞に到達するが、その集まりがヒトという自己維持機構と知能を持つようになる。

ここで現われてくる全体（マクロ）としての機能は、構成要素である個（ミクロ）が受け持っているにはちがいないが、個そのものではない。そこには、個が集って作られる「しくみ」がある。個別に学習したことが全体として人格を形成していくことも、学習者内部の「しくみ」であろうか。」と説明し、それぞれ担当者によって「しくみ」のテーマが別々である。筆者は

文献探索法—そのしくみ—

と題して今日の情報化社会とか生涯学習時代とも言われる時代に、情報環境の変化や対応にいかに対処し、情報の収集、処理、加工といった能力を身につけた人材が要求されるが、現在の学校教育では、このような教育、すなわち知的生産の技術あるいは学び方の技術は教わっていない・教えていない・受験志向の知識詰め込み教育である。よって本講座では自学学習を前提した大学教育のとりくみ方としての基礎知識で情報処理活用能力、今日的言葉で言えば、情報リテラシーを身につける

ことで、資料を探す、整理する、考える、表現するといった一連のプロセスについて概説する。」と講義要項に発表した。そして筆者は次の日程で講義した。

- 平成6年12月9日 第1回
 平成6年12月16日 第2回
 平成7年1月13日 第3回

II 文献探索法の講義概要

第1回 文献探索法の必要性 12/9

- 1 序論
 学校教育
 大学教育
- 2 情報源としての図書館の役割
 図書館とは
 図書館の構成要素
 図書館の機能
- 3 図書館サービス
 ※VTR「図書館の達人」
- 4 文献探索の基礎
 目録とは
 目録の機能、種類
 分類とは
 分類の機能
 日本十進分類法

第2回 調べる道具(レファレンス) 12/16

- 1 案内型
 事実回答型 } 種類と解説
- 2 調べる事柄とその道具
 (1) 図書、雑誌、新聞
 (2) ことばと成句
 (3) ものと事柄
 (4) ときと歴史
 (5) ところと地理
 (6) ひとと機関
- 3 主題別参考図書の解題

第3回 論文・レポートの作成のプロセス 1/13

序論

論文・レポート作成のためのプロセス

- 1 テーマを決める
- 2 バックグラウンドとなる情報を得る
- 3 仮のアウトラインを作る
- 4 必要文献を探す
- 5 文献の入手、情報の入手
- 6 資料を読み、情報カードにメモをとる
- 7 最終アウトラインを作る
- 8 執筆と推敲
- 9 参考文献リスト、注の作成
- 10 仕上げと提出
 まとめ

III アンケート結果の概況

3回の講義のあと最後の10分前後に次のようなアンケートを実施した。

- 平成7・1・13
 文・英・栄・家
- 文献探索法の講義を受けて
 (該当する番号に○印をつけて下さい)
1. 文献検索(探索)・図書館利用技術の必要性についての講義についてどう思われますか。
 1) 必要と思う 2) そうは思わない
 2. このような科目、必修科目・選択科目と設ける場合どちらがよいですか。
 1) 必修科目 2) 選択科目
 3. 日本十進分類法が図書を分類する道具としてある事を知っていましたか。
 1) 知っていた 2) 知らなかった 3) はじめて知った
 4. 目録の働き、すなわち著者・書名・分類・ことば(件名)からさがす事を知っていましたか。
 1) 知っていた 2) 知らなかった 3) はじめて知った
 5. ヘボン式ローマ字のある事を知っていましたか。
 1) 知っていた 2) 知らなかった 3) はじめて知った
 6. 調べる道具として、いろいろな参考図書がある事を知っていましたか。
 1) 知っていた 2) 知らなかった 3) はじめて知った
 7. 著作権法について
 1) 知っていた 2) 知らなかった 3) はじめて知った
 8. レポート作成について、いままで教わった事がありましたか。
 1) ある 2) ない

9. 文献探索法を聞いて思った事について感想を述べて下さい。

アンケート概要

総合講座III

○受講登録者数 321名 (各科1年生対象)

内 訳	人 数
文 芸 科	85名
英語英文科	67名
栄 養 科	89名
家 政 科	80名

○アンケート回収数 284名 88.4%
 (図書館学履修者 41名)
 うち { 文芸科 40名
 英語英文科 1名

アンケート集計結果

問	回 答		
	1 (知っていた)	2 (知らなかった)	3 (はじめて知った)
1	235名 82.7%	47名 16.5%	
2	56名 19.7%	228名 80.2%	
3	70名 24.6%	113名 39.7%	100名 35.2%
4	192名 67.6%	55名 19.3%	36名 12.6%
5	118名 41.5%	109名 38.3%	56名 19.7%
6	182名 64.0%	68名 23.9%	32名 11.2%
7	187名 65.8%	71名 25.0%	25名 8.8%
8	85名 29.9%	199名 70.0%	

III-1 解説

3) 日本十進分類法が図書进行分类する道具としてある事を知っていましたか。

- 知っていた
70名 (24.6%)
- 知らなかった
113名 (39.7%)
- はじめて知った
100名 (35.2%)

日本十進分類法 (NDC) の理解は、図書の探し方としては小学校時代から図書館を利用して理解していたと思ったが、データで「知らなかった」が39.7%、第1回目の講義で知ったと合わせると70%以上のものが

NDCについて知らなかったことになる。そして講義を受けての感想は、

<感想>

- 今まで日本十進分類法を利用して調べるのではなく、棚の文字を見て資料を探したり、必要以上の資料を目録 (分類) でひくことはなかったので、この授業を生かしていきたいです。
- 今まで、図書館に行って物 (資料) を探すとき、いちいちグルグル廻って、本を探していたが、日本十進法分類法を知り、とても早く探すことができた。このようなことはもっと早く知るべきだと思った。
- いつも何げなく利用していた図書館でしたが、本についていたラベルに、こんなに分類する意味があったとはじめて知りました。これからも大いに役立ちそうです。
- 莫大な本が図書館にあるが、利用されやすいように工夫されていて、「分類」を考えた人はすごいと思いました。
- これだけ多くの図書を整理するから十進法とかの役割が大切だと思った。

4) 目録の働き、即ち著者、書名・分類、

件名からさがす事を知っていましたか。

- 知っていた
192名 (67.6%)
- 知らなかった
55名 (19.3%)
- はじめて知った
36名 (12.6%)

目録についての講義は第1回目とき、説明したが、上記のデータの如く、目録についての知識として知らなかった、またこの講義を聴いてはじめて知ったを合わせると31.9%だが、分類にくらべ、目録はよく知っていたようだ。(67.6%)が、実際カードにフレて見た、また利用したことがあった

かどうか判明できなかった。一般的には、分類のアンケートにもあったように、実際はカード目録で検索するより、直接書架の案内表示で探しているものが多く見られると推察される

〈感想〉

- 図書1冊を調べるのに、こんないろいろな方向から目を向けて探すとは思わなかった。今回講義で聞いた文献探索法は、知っていて損はないと思った。
- 参考図書を調べるにも検索手段や方法を詳細に知らなかったので、外国人の著者名を調べる方法（転置して）が、わかったので、これからいろいろと役立つと思います。

5) ヘボン式ローマ字がある事を知っていましたか。

- 1 知っていた。
118名 (41.5%)
- 2 知らなかった
109名 (38.3%)
- 3 はじめて知った
56名 (19.7%)

ヘボン式ローマ字については、目録のところで講義したが、今まで知らなかったが、38.3%、講義ではじめて知ったが19.7%あわせて、58%がヘボン式ローマ字を知らなかったという。学校では訓令式は教えているようであるが、ヘボン式は教えていないようである。

国立国会図書館の目録表記は、今でも訓令式のようなものである。大学図書館の目録表記は一般的にヘボン式を採用している。それゆえにヘボン式ローマ字についても理解しておく必要があるということで講義の中で説明した。でも現在目録規則がNCR87に移行しつつあるなかでは、カタカナ表記になっているが、また公共図書館でもカタカナ表記であるが、

〈感想〉

- ヘボン式ローマ字は、普段図書館へ行っても不思議だったことのひとつでした。今は、いろいろなことが頭の中でゴチャゴチャしているので、自分なりに整理してこれから活用していきたいと思います。

6) 調べる道具として、いろいろな参考図書がある事を知っていましたか。

- 1 知っていた。
182名 (64.0%)
- 2 知らなかった。
68名 (23.9%)
- 3 はじめて知った。
32名 (11.2%)

レファレンスブック（参考図書）は、二次資料とか書誌などといひ、また調べるための本、また調べるための参考図書であり、調べるための道具（レファレンスツール）でもある。

このアンケートによれば、参考図書とはどのようなものであるか、まあまあ理解していたが、64.0%は知らなかった、講義を受けて知ったとあわせて35%であった。しかし参考図書を用いてどう調べるか、知っているものは少ない。

〈感想〉

- 文献探索のためにいろいろな参考図書があるのがわかり活用できそうだ。
- 参考図書に知らないものがたくさんあったことにおどろいた。
- 私が知っている以上にいろいろな参考図書があり、おどろいた。
- ただ単に本を探すのに目録を見たりするだけだったが、いろいろな参考図書があることがわかり、図書館を利用しやすくなった。
- 今まで何度かレポート提出をしたことがあるが、この授業で紹介されたぐらい多

くの参考図書のあることを知らなかった
ので、これからのレポートに役立てたい。

- 今まではあまりどの本を使って調べてい
いかよく知らないものが多かったので、
今回いろいろな参考図書を知れてよかつた。
- 文献探索法という方法がある事は知らな
かった。それによりいろいろな探し方、
参考図書の多いことがわかった。
- 調べる道具としての参考図書があるのは
知っていたのですが、種類がとっても沢
山あったので、知らないことがいっぱい
わかりました。

7) 著作権法について。

- 1 知っていた
187名 (65.8%)
- 2 知らなかった
71名 (25%)
- 3 はじめて知った
25名 (8.8%)

著作権については、第1回目、図書館サー
ビスの中で複写サービスで多少説明、また
第3回目レポート作成のプロセスの中でコ
ピーをとることで、さらに引用の明示、参
考文献の表示等で話した。データを見ると、
すでに65%以上の学生は知っていたとしう
結果であるが、どういうことなるか。

注：平成7年1月 文教大学湘南図書館が
湘南校舎の全学生（情報学部・国際学部・
短大4科）を対象とした図書館利用に関す
るアンケート調査を実施した。

○利用対象

大 学	短 大	合 計
3017名	1714名	4731名

○回答数

1569名(52%) 1314名(76%) 2883名
(60%)

図書館のアンケート調査は主として開館時

間に関するものであったが、著作権に係わ
る項目があったので注目してみた。

問16 図書館のコピー機の利用は、当
蔵所蔵の図書や雑誌のコピーをする場
合に限られる。またその場合、著作権
の遵守が義務づけられています。あな
たは、これらのことを知っていますか。

- A 図書館所蔵の図書や雑誌に限られる
ことは知っているが、著作権法のこ
とは知らなかった。
- B 著作権法のことは知っているが、図
書館所蔵の図書や雑誌に限られるこ
とは知らなかった。
- C いずれも知らなかった。
- D いずれも知っている。

16で回答者2838名でA 356名(12.5%) B
と回答したもの716名(25.2%) Cが1346名
(47.4%) Dが420名(14.9%)というデー
タでCの1346名 47.4%のものが著作権に
ついて何も知らないとはおどろいた。

問17 著作権法による定めのうち、あ
なたはどれを知っていますか。

- A コピーすることができるのは、著
作物の一部であること。
- B 定期刊行物（雑誌等）は、発行後
相当期間を経たものであること。
- C コピー部数は一人につき一部であ
ること。
- D その他（具体的に）

17の回答者1192名でAと答えたもの684名
(57.3%) B362名で30.3% Cでは146名で
12.2%である。

学校教育で、また大学教育で教わらないの
か、教えないのが問題である。ただ、筆者
は短大において図書館学を担当しとおり、
複写サービスの係わりで著作権の概要につ
いて教えている。また今回の総合講座で1

部の学生について話しをしたが、教養として、レポート作成や自学学習においても必要な知識であるゆえ、そういう事柄をどこかで教えるべきと考える。

〈感想〉

- 著作権法のウンヌンは知らなかったの、レポートなど書く時、気をつけなければならないと思った。
- 著作権法でコピーのことが定められていることにおどろきました。レポートが多いので、参考になりました。

8) レポート作成について、今までに教わったことがありますか。

- 1 ある
85名 (29.9%)
- 2 ない
199名 (70.0%)

データの如く70%の学生は今までレポートの作成プロセスについて教わったことがないにはおどろいた。レポート課題が在学中時折課題が出されているが、どう書いていたか疑う。今まで学校教育で教わっていなかったのか、どうか、大学ではレポート課題を出す担当教員はどう意図で、どう書くか指導しないのか、本講座では第3回目のレポート作成プロセスについてくわしく説明した。

〈感想〉

- レポートの書き方、図書の探索法も知らず、レポートを書いていたかと思うと「ゾット」とした。
- 講義を聞いてレポート作成が楽しくなりそうだった。
- これから見つけたいものが、今までよりも早く探せると思う。レポートの書き方は絶対に役立つと思ったし、教わってよかった。
- もっとくわしくレポートの書き方につい

て知りたかった。

- レポート作成法などは知っているようで、知らないことも多く聞いてよかったと思う。
- レポートの書き方はいつも困っていたけれど講義を参考にしようと思う。
- 沢山ある図書館の本の利用法が少しですが、理解できたような気がします。レポートを書く機会は少ないですが、書く時には気をつけて書いてみたいと思います。
- 今はまだよく理解できていないけれど、理解できれば卒論を書く時などにすごく役立つと思った。
- レポートを書くための基本的調査のプロセスを教わることができてよかった。今後レポートを作成するうえでとても参考になると思う。
- 私は今、栄養科の2年生です。とてもレポート書く機会が多かったです。もう後期で、しかももうレポートを書く機会がなくなった今、もう少し早くこの方法を知ることができたかと思いました。とても勉強になり、勉強できて良かったです。
- これから調べなくてはならないことや、やらなくてはならないレポートがあったので、役に立ちました。

1) 文献検索(探索)とか図書館利用技術の必要性についての講義についてどう思われますか。

- 1 必要と思う
235名 (82.7%)
- 2 そうは思わない
47名 (16.5%)

文献探索法、図書館利用技術の必要性については、第1回目の予論で必要性を例にあげて強調した。それに対してアンケート回答では、圧倒的に多く235名の82.7%は必要であると言う。そう思わないのは16.5%で、

自分自身で必要性を意識や、認識していないことであろう。

〈感想〉

- 社会の中が情報であふれている今、何が自分に必要なのかを見極めることは難しいと思う。また必要な情報がほしい場合でも、どうしたらよいかわからないこともあるだろう。そういう意味でこの「文献探索法」は知っておいたほうが便利であるし、高等教育を受けているものには絶対必要だと思う。
- 高校までの教育の中で、文献の調べ方、活用法、論文の書き方など教わらず、今論文、レポートを書くのに困った。文献探索法を知り、とてもよかった。
- 図書館の利用法（文献探索法）をよく知らない一番の原因は、学校（図書館）にあるのではないかと思う。今まで知らないことが多すぎた。
- 今まで、このような授業（文献探索法）がなかったため、大変勉強になりました。図書館利用法がわかり、これから多く利用したいと思いました。
- 普通の授業では教われない大切なことを知ることができ、とても役立ちました。
- 図書館学の講義を受けていない人にも必要な知識だと思った。
- こういう授業があったほうがためになると思った。
- 今は本当にいろいろな資料があるので、文献探索法について知っていると思えばスムーズに効率的にできると思った。
- 必要な知識を教えない学校教育に問題があると思う。
- この文献探索法は学生時代だけでなく、社会に出ても「調べる」ことをしなければならぬ時もあると思うとやはり必要だと思えます。

2) このような科目を、必修科目・選択科目どちらがよいですか。

1 必修科目

56名 (19.7%)

2 選択科目

228名 (80.2%)

学生は必修科目ではいやだけど、選択科目なら短大の教養科目として設けてもよい、また設けてほしいが80%を越えたことにはおどろいた。中には、この科目は学生として（すべての学科）の必須の知識として、必ず設けるべきと積極的に望む学生もいて注目すべきことである。他大学ではその必要性を認識し、教養科目に導入し実施しているところを増えはじめている。本学でも検討すべき早急な課題である。

〈感想〉

- いろいろな文献の探し方があることは知ったけど、もっと詳しく知りたいと思った。そして役に立つことだから必修科目にしてもらいたい。
- 文献探索法について知らなかったことが少しわかったので、必修科目としてこれから必要だと思った。
- このような科目が必修科目になれば、もっと図書館の利用も多くなり、図書館ばなれも防げるようになるのではないでしょう。
- 最近では、図書館に文献探索にコンピュータが導入され、本を探すのが楽しくなったが、文献探索法を知っていると、図書館の本を探すのが簡単になってよいと思う。私は文芸科ではないが、選択科目であつたら受けてみたい。

注：文教大学教育研究所発行の「教育研究所紀要第3号（1994）に「大学教育改善のための一つの試み—教授法実践事例データベースの作成—」で小林勝法氏が「学生のアンケートとして、学生は教員に対して学

習方法の指導について

- レポートの書き方 45.2%
- パソコンなどの使い方 42.9%
- 参考書の探し方 28.4%

など希望している。

一方教員もレポートの書き方(38.5%)発言や討議の仕方(34.6%)など必要と認識している。そこで1995年度から新カリキュラムではパソコン基礎演習が必修科目として開設されてることになった。また今回得られた教員による実践事例では、図書館情報学なる科目は国際学部には開設していないので、各教科目でこれら一部教えている。例えば、「比較食文化論」では、小論文作成のトレーニング、「技術文化論」では、情報の収集、整理、提供および標準化などである。

「高校までの学習や受験勉強と大学での学問探求との間には、学習法上の大きな隔りがある。知識の記憶中心の学習から、自ら探求する学問、研究へと転換させる必要があり、そのための学習技術を早急にカリキュラムに取り入れるべきであろう。学生の実態調査でも、学年が上がるにしたがって、これらの技術を指導してもらいたいとの回答が増えている。」と云っているが、これは短大でも同じことが言える。先の図書館利用に関するアンケートでも、著作権法を知らないことをはじめとして文献探索法においては一層その知識・技法が学生生活において必須であることを、学生自身認識してもらいたい。教員としても自覚し早急にカリキュラムに導入すべきと思う。

III-2 文献探索法の講義を聞いて

回答284名中208名より書いてもらった。

〈感想〉

- 今まで、このような文献探索について、

いろいろな方法があることを、教わったことはありませんでしたので、大変興味深く、講義を聞きました。知らなかったことも多々あり、もっと詳しく知りたかったです。

- 3回でやるにはムリがある。やはり時間が足りないと思う。具体的な探索方法とか知っているのと効率的でよいと思う。
- いいレポートを書くために、参考文献が80%を占めるというので、多くの参考文献を知るためにも、文献探索法を沢山聞けてよかったと思う。
- 今まで図書館で本を探するとき、図書館中を歩いて、本の背表紙を1冊1冊見て探していた。これでは自分の求めている本がなかなか探せないのだということが、この授業を聞いて感じられた。
- 「文献探索法」こういうことは、絶対に知っていた方がいいと思います。知っていて損することはないと思うからです。いざという時、資料を探すことが楽になりそうです。
- 今までは、図書館にいても調べ方がわからなかったけど、この授業を聞いて、いろいろな調べ方がわかることがわかり、勉強になった。
- 私たちは英文科の1年なので、レポートを書くことはあまりないけど、2年になるとそういう機会も多くなるはずですが、でもたいした数を書くことはないと思うので、そういうことを沢山やる必要がある人は、やはりレポートの書き方や文献探索法を勉強する必要があると思いました。
- いつもレポート課題が授業の宿題で出た時、図書館へ調べに行ったりしますが、どのように調べたらいいか困ることがあるし、レポートの書き方もどうしたらよいかわからないことがあるので、文献探

索法を知ることは大切だと思いました。

- 文献探索法という授業はもちろん初めて受けたので、とても興味深かったです。今日習っただけでは、まだ文献探索法をしっかりと理解できないので、もっと回数を多くして授業してほしいです。

○図書館学履修性の声(41名の意見の中から)

- 図書館学の授業を受けているが、あらためて勉強になりました。
- 私は司書をとっているのですが、3回の授業でもある程度理解できたが、とっていない人は時間が少なく、理解度も十分ではないような気がした。
- 図書館学をとっているのですが、復習みたいでしたが、でも図書館の使い方は、文芸科だけでなく、色々な人が知っている方がよいと思うので、やってよかったと思います。
- 私は図書館学をとっているのですが、授業で習ったことの復習みたいで、思い出しながら聞いていた。一度聞いているので、わかりやすかったと思う。だけど、初めて聞く子にとっては、まだよく理解できないんじゃないかと思う。

○図書館の利用が上手になる

- 今まで知らなかったことがあったので、いろいろ知ることができ、よかったです。今まで図書館にいきづらかったけど、今度から行こうと思いました。
- 一つの本を調べるために、いろいろな角度から調べられるとははじめて知った。今までは、図書館の棚に書いてあるところだけを見ていたので、これから役に立っていくと思う。
- 探索法を理解すれば、自分の探したい本が早く見つけることができると知り、図書館を利用する時に、今までよりも早く

見つけることができると思いました。

- 自分で必要な本がなかなかみつかることができず困ったことであったが、この文献探索法を聞いて、図書館のあり方、必要性、利用性などが解った。
- 今までこのような文献探索法など、なにも教わらずに図書館など利用していましたが、この授業を聞いて、このような使い方や利用法があることを知りました。

○文献探索法の講義を聞いて

- むずかしくってあまり理解できなかった。
- 何を言っているのかよく理解できなかったが、必要だと思った。

○進め方

- プリント等を使って授業を進めた方がいいと思う。
- 私は家政科なので、このような講義は初めてなので、大変興味深かった。授業のペースが早かったので、もう少し、黒板にわかりやすく書いてくれたらよかったと思う。
- 短大では栄養科だけが大変なのかと思っていましたが、文芸科の勉強も大変だと思いました。図書はいろいろなことを知る宝物だと思いました。

○授業回数

- 図書館の授業をやっていたので、そうは思わなかったが、他の人ははじめて知ることが多かったようです。これが3回の授業は少々みじかいような気がする。
- 図書館を利用する機会が多いので、ためになった。もう少し時間があればよかったと思います。

<コメント>

学生に指摘されるまでもなく、当初から少ないことは承知していた。総合講座の時間

配分は平均3回であるので、圧縮して授業を進めなければならない制約もあった。しかし、全学生を対象に選択科目（総合講座3つのうち1つ選択必修）であるにしても、総合講座Ⅲ「文献探索法」を受講した学生に文献探索法の必要性、技法を教授し刺激を与えたことはよかったと思う。

○反省

担当者も当初から平均授業回数は3回であり、時間が足りない指摘していたが、学生のアンケートでも「もっとゆっくり説明してください」「くわしく説明してください」などの感想や意見があった。筆者の担当でも、図書館の機能やレポートの書き方については、たゞ説明だけでなくVTR「図書館の達人」も視聴させると、最初から計画していたが実現しなかった。これも時間ない、少ない。

もしVTRを見せていたら授業効果も一層高まったのではないかと考えている。

また、このような科目は総合講座でなく教養の必修科目として設けるべきと主張する学生もいた。これも大学設置基準改正による教養科目の充実として、他大学ではすでにこのような科目が導入されている。我が短大でもその必要性を認識する必要がある。

文教の4大生は教員に対し、レポートの作成プロセス、技法を、また資料探索法を教えてくださいと云っている。よつて全学的に早急なカリキュラム内容の検討が必要と思われる。

IV 結

文献探索とは特定文献、資料の所在（所蔵機関）の確認、特定の主題、人物などに関する文献、資料の出版状況、内容などに関する文献調査業務をいうが、筆者の文献探索法は初歩の利用者教育である。本来学校教育では図書館利用教育を徹底してやるべきもので、

大学においては学校教育における基礎のもとに、大学ではより高度な情報活用能力を育てて行くことが必要であるが、アンケートでも、このような知識は学校教育で教わるべきだったが、全然教わってこない、今回の授業で、はじめて知った、が圧倒的に多いことも学校教育で教えていないところに原因がありそうだ。文献探索法は学生生活でも極めて重要である。大学における学習は自学自習を原則であり、この原則を実現するためには、必要とする文献及び情報を的確に探し出す能力が要求される。またこうした技法や知識は社会に出ても生涯必要なことである。他大学では、すでに教養科目に情報活用論やオリエンテーション科目として資料検索法2単位、論文執筆法2単位、研究調査法2単位、プレゼンテーション法2単位を開設し、大学1年よりその基礎を養成している。我が短大でも見習い、また早急にカリキュラムの見直しが行われなければならないと痛感した次第である。

＜参考文献＞

- 1 藤田節子著 学生、社会人のための図書館活用術 日外アソシエーツ 1993
- 2 丸本郁子他編 大学図書館の利用者教育 日本図書館協会 1989
- 3 日本図書館学会研究委員会編 図書館における利用者教育 日外アソシエーツ 1994
- 4 調べ学習に役立つ図書館シリーズ全6巻 ポプラ社 1993
- 5 小林康夫著 知の技法 東京大学出版会 1994
- 6 毛利和弘 利用指導の現状—4年制大学—「現代の図書館」vol32.No.1 1994 P.64~
- 7 大城善盛 生涯学習社会と情報リテラシー「図書館雑誌」vol.88.3 1994 P.141~
- 8 室伏 武 情報教育について「亜細亜大学教養部紀要」No.47. 1993 P.1~
- 9 池田秀人 情報教育の必要性「情報の科学と技術」vol.44.10 P.532~

- 10 室伏武 情報活用能力とその指導 第一法規 平成1
- 11 杉山光男 学校図書館における情報処理能力の指導 第一法規 昭和62
- 12 山田博美 情報処理能力とその指導計画 第一法規 昭和63
- 13 大橋ゆか子他 大学教育改善のための一つの試み「教育研究所紀要」第3号 文教大学教育研究所 1994.P.70～
- 14 駿河台大学文化情報学部講義内容 1994年度版 駿河台大学 1994
- 15 森靖雄 大学生の学習テクニック 大月書店 1995
- 16 野口悠紀雄 超整理法, 続超整理法 中央公論社 1993
- 17 情報アクセス研究会 現代人のための情報収集術 青弓社 1995
- 18 池田祥子 文科系学生のための文献調査ガイド 青弓社 1995